

みんなで支える「みえの森林づくり」を考えるミニ県民集会 結果概要

平成24年6月21日(桑名市)、27日(四日市市)、7月4日(津市)にて計3回開催しました。森林づくり活動や環境問題、地域防災に取り組む方など51名が参加し、ワークショップ形式で、本県の森林・林業の現状と課題、森林づくりに関する税について議論していただきました。

税導入について、賛成が大半でしたが、数件の反対もありました。概要は次のとおりです。

【各会場共通事項】

18:30～19:00

《話題提供》県担当者から森林の現状と課題、森林づくりを県民全体で支えるための森林づくり税の検討状況と報告書(骨子案)について説明

19:00～20:00

《グループワーク》

テーマ 三重県の森林の状況についてどう感じたか(自己紹介かねて)

テーマ 森林づくり(森林が持つ課題の解決)を支えるための新たな税の導入についてのお考え、ご意見、期待するものは

20:00～20:15

《各グループ検討結果発表》

20:15～20:30

《まとめ》

桑名会場

場所：三重県桑名庁舎附属棟1階 第2会議室

日程：6月21日(木)

(1)参加人数：20名(コメンテーター2名含む)

(2)参加者：森林・里山関係のNPO法人に所属の方、自然観察指導員、環境活動をされている方、森林が好きな方、森林が身近でない方等

(3)意見抜粋

- ・税で行う事業の効果、森林の働き、なぜ税が必要なのか、などについて分かりやすく説明してほしい。
- ・税の徴収額やその用途についてHPで公表するなど「見える化」を図ってほしい。
- ・幼少期から森林に親しみ、森林の働きを学ぶ必要がある。
- ・用途には透明性をもってほしい。
- ・現場でがんばっている人に還元するべきである。
- ・税で県民の山のような自由に入れて体験も出来る場を作してほしい。
- ・モデル事業を行い、その結果をみてから税を導入するという考えもある。

四日市会場

場所：三重県四日市庁舎 1階 第11会議室

日程：6月27日（水）

（1）参加人数：19名（コメンテーター3名含む）

（2）参加者：森林・里山関係のNPO法人に所属の方、環境教育関係の社団法人に所属の方、市役所職員、小学校勤務の方、原木シイタケ生産者、環境美化活動を行っている方、自然環境の任意団体に所属の方等

（3）意見抜粋

- ・まずは森林所有者が自分の力で森林整備をするべきではないか。
- ・国土保全という観点から山づくりを考えなければならない。
- ・山の現状を広く知ってもらって、問題意識を持ってもらうことが大切である。
- ・循環の仕組みづくりを税で行い、後々は自立する産業にしていくべきである。
- ・森林環境教育は幼小だけでなく、中高まで継続して行うべきである。
- ・県が税を投入して行う事業が国の事業の補足とならないよう、国とは別の考え方に基づいた、地域性を加味した使途でなければ理解は得られない。

津会場

場所：みえ市民活動ボランティアセンターミーティングルームA・B

日程：7月4日（水）

（1）参加人数：20名（コメンテーター3名含む）

（2）参加者：森林・里山関係のNPO法人に所属の方、森林に興味のある方、漁業団体出身者、PLT指導者、森のせんせい登録者、自然環境の任意団体に所属の方等

（3）意見抜粋

- ・税金を導入する前に、もっと森林についての理解を深めるための働きかけが必要である。
- ・森林の分野だけでなく、教育や防災、観光の視点でも活用法を考えるべきだ。
- ・税で他県にあるような森林について学ぶ施設を作ってはどうか。（林業従事者を育成するシステム作り）
- ・森林環境教育には、学校での教育だけでなく、地域の大人が子供に教えることも必要である。
- ・山林の境界が不明で、所有権の問題もあるため、なかなか整備に踏み込めない。